

令和4年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価（3月27日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>① 課題を発見し、自ら主体的に学ぶ意欲を養い、思考力、判断力、表現力を育む。</p> <p>② 学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体性の伸長を図る。</p>	<p>① 組織的な授業改善を深化させ、マネジメント力を高めるとともに、プログラミング的思考やSDGSの視点を取り入れた授業実践を行い、生徒の論理的思考力・課題解決力を高める。</p> <p>② 学校行事や生徒会・委員会活動において、生徒主体の活動を後押し、成功体験を得ることによる人間力向上を目指し、生徒自身が前向きに学校生活に取り組み活気ある学校づくりを推進する。</p>	<p>① プログラミング的思考を取り入れた授業を意識した授業の組み立てを行い、もの見方・考え方を働かせる授業を行う。</p> <p>② ねらいを明確にした思考させる事例をベースに組織的な授業改善を行う。</p> <p>③ 各自の課題を発見させる機会を増やす。</p> <p>④ 生徒一人一人の役割を明確にし、場を与えることを意識した活動を計画し実行する。学校行事を生徒主体で企画・運営していくようサポートする。</p>	<p>① 生徒による授業評価で各項目の評価が3・4を合わせて90%以上となったか。</p> <p>② ねらい、方法、評価を明確にした思考させる授業作りを全教科・全科目で行うことができたか。</p> <p>③ ポートフォリオ形式で各自まとめることができたか。</p> <p>④ 生徒主体の生徒会本部の活動、委員会活動が行えたか。</p> <p>⑤ 学校行事への参加率、生徒の満足度が90%以上あったか。</p>	<p>① 生徒による授業評価では、1回目、88.65%であったが、2回目は全体では、90.7%となった。「他者の考え方を知り、自らの考えを広げ深める機会がある」で未達成となった。</p> <p>② 第2回生徒による授業評価で92.1%であった。</p> <p>③ 1学年は、ポートフォリオをGoogleサイトでまとめた。</p> <p>④ 生徒主体の生徒会活動、委員会活動を行っている。</p> <p>⑤ 体育大会・文化祭への参加率、満足度は90%以上である。</p>	<p>① 「思考力を育む10の技法」のマグネット活用やICT活用等、研修会にて事例を共有し、改善する。</p> <p>② 年度初めにプログラミング的思考を育む授業作りについて、職員会議等で共有していく。</p> <p>③ 次年度も引きつづき行っていく。</p> <p>④ 引き続き生徒主体の活動をサポートしていく。</p> <p>⑤ 後半の行事に向け参加率、満足度共に90%以上であるように準備していく。</p>	<p>① 目標を十分に達成していると評価する。</p> <p>② スタディアプリを活用し、集団指導と個の学習をうまく合わせてほしい。</p> <p>③ 調べて分かることではないことを課題とした学習指導がなされると、他校との差別化ができる。</p> <p>④ 生徒会本部役員生徒がよく動いていると聞き、頼もしく感じる。同窓会とも連携してほしい。</p>	<p>① 目標に達する評価はされたが教材等の活用を工夫することが望まれる。</p> <p>② 生徒が主体的に取り組めるように促し、通常の活動が求められる中で活性化に取り組むことが課題である。</p> <p>③ 生徒の活躍の場を設定し、PTAや同窓会等との連携も視野に入れ、活動を計画する。</p>
2	生徒指導 ・ 支援	<p>① 生徒の現状にあったルールの見直しと学校全体で統一されたルールに基づく頭髪、服装指導や遅刻指導の徹底をする。</p> <p>② 地域に信頼される生徒を育成する。</p> <p>③ 教育相談体制を充実させる。</p>	<p>① 各学年、各担任間で連絡を密にし、統一した指導を行う。</p> <p>② 遅刻回数に応じて指導方法を変え、徹底を図る。</p> <p>③ 積極的に登下校の指導を行い、生徒のみならず、地域の安心安全を目指す。</p> <p>④ SC拠点校の利点を生かしカウンセリングの充実を図る。</p>	<p>① 始業式や終業式など全学年が一堂に会す場で統一した指導ができたか。</p> <p>② 遅刻の件数を例年と比較し、減少したか。</p> <p>③ 事故の件数や、苦情の件数が例年より減少したか。</p> <p>④ 教育相談の利用率を上げ、生徒個々にフィードバックできたか。</p>	<p>① オンラインを利用した式ではあったが、問題点を共有し、統一した指導を行った。</p> <p>② 苦情の減少に対し、遅刻は増加傾向にある。</p> <p>③ 教育相談件数自体は減少したが、内容的には困難な案件も増えてきている。</p>	<p>① 指導の徹底を図るべく、継続した声掛けを行っていく。</p> <p>② 遅刻増加の一つの要因としては、1年生の大幅な遅刻増加が考えられる。粘り強く遅刻指導を行って改善していきたい。</p> <p>③ 教育相談にかかることなく、早期に進路変更していく生徒も増えてきている。これらに対する改善策も考えなければいけない。</p>	<p>① 継続して挨拶をしっかりとできる生徒を育ててほしい。</p> <p>② 挨拶ほどの場面でも必須、卒業生呼名時、全員が同じトーンで返事ができたらい。</p> <p>③ 遅刻や身嗜みについては、相手のことを考えられるような本質に近い指導をしたらよいと思ひ。</p>	<p>① 学校生活に一定の落ち着きが見られている。今後も生活指導の継続を全職員で行う体制を整え、保護者等とも連携し行う必要がある。</p> <p>② 部活動の加入率は上がっていない現状である。生徒の意識が高められるように工夫することが課題である。</p>	
3	進路指導 ・ 支援	<p>① 進路実現に向けて1・2年生での進路探究を進めモチベーションを高める。</p> <p>② 保護者等に向けた各種情報発信を工夫する。</p> <p>③ 基礎学力をより高めながら、上級学校への意欲を高めるキャリア支援を行う。</p>	<p>① コンソーシアムと連携して、インターンシップや上級学校講演会などへの参加をおおむね50件以上に増えたか。</p> <p>② Classroomや動画配信を充実させ、進路関連情報を保護者等に提供する。</p> <p>③ スタディアプリやスタディプリングリッシュを活用し、基礎学力を高める指導を行う。</p>	<p>① インターンシップや上級学校講演会などへの参加がおおむね50件以上に増えたか。</p> <p>② 年間を通じて、その時期に応じた進路情報を保護者等に適切に提供できたか。</p> <p>③ 到達度テスト等の結果を分析し、学力向上に反映することができたか。</p>	<p>① 地区インターンシップの参加は前年比19名増の37名、看護体験5名、神奈川大学体験講座4名など、増加している。</p> <p>② classroomを利用して奨学金情報や各種進路情報を提供している。</p> <p>③ 到達度テストを2回実施し、内容を現在確認中である。</p>	<p>① 夏季休業直前に急きょ体験取りやめになった事業所や病院があったため、総数は取り組みほど伸びなかった。</p> <p>② 保護者に情報が直接届く方法・媒体が必要と考える。マチコミの併用を取り入れたい。</p> <p>③ 基礎学力の向上だけでなく、面接対策や公務員試験対策など進路希望に合わせた活用を取り入れたい。</p>	<p>① インターンシップについてはコロナ禍下にも関わらず成果が上がった。</p> <p>② 自分の会社でもインターンシップを受け入れられる。</p> <p>③ 保護者等への情報提供を今後も行う。</p> <p>④ アルバイトをせざるを得ない生徒には、スタディアプリを通じて学力を伸ばした事例もあるので、あわせて指導してほしい。</p>	<p>① 通常の生活に戻る状況にあるのでインターンシップ等を積極的に進める必要がある。</p> <p>② 進路の情報を保護者等へ周知することが課題である。</p> <p>③ 教材等の活用を生徒がより積極的に行えるように工夫する事が課題である。</p>	

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域と連携して、信頼される学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校運営協議会の活性化を図るとともに、PTA活動を通して、魅力ある学校づくりを推進する。 ② 学校説明会、中学校への学校紹介資料の配付、ホームページ等を通して、本校の特色を幅広く発信し、魅力を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校運営協議会によって課題や目的を共有し、改善方法を共有する。また、PTA活動への積極的な参加を促す。 地域への要請に応じて、地域連携事業に積極的に参加する。 ② 新たなグループ(研究広報)による、学校説明会の更なる充実を図る。 各グループにホームページ担当を配置し、積極的に更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校運営協議会によって課題や目的を共有し、改善できたか。 PTA活動への参加者が、昨年度よりも増えたか。 地域への要請に応じて積極的に参加できたか。 ② 学校説明会等で学校の特色を適切に伝えられたか。 ホームページは常に最新データに更新されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 課題や目的を共有し、改善に向けて取り組んでいる。 成人旅行の再開など、PTA活動は増えているが、一般会員の参加については例年並みである。 地域への要請に応じて積極的に参加した。 ② 4回の学校説明会を実施し、863名の中学生に、本校の特色を適切に伝えた。 常にデータ更新に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 今後も課題や目的を共有し、改善方法を探っていく。 PTA活動の効率化を図るとともに、活性化にも取り組んでいく。 今後も要請に応じて、生徒の参加を促していく。 地域連携が可能な機会を逃さず協力していく。 ② 今後も本校の特色を伝え、進路選択の参考になるようにしていく。 すべての参加希望者が参加できるよう今年度行った校内リモート開催も検討していく。 各グループや学年、部活動等を中心に行事毎の更新に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染症防止対策の影響で地域との協働は難しい状況にあった。 ② 学校説明会において、多くの参加者があり、次年度も魅力を伝えてほしい。 今後もホームページの更新を適切に行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 今後は地域との協働の機会が増えるので生徒の参加を促し、体制を再構築しなければならない。 ② 学校説明会の参加希望者の把握が次年度は課題である。 最新の情報提供に努める。 ③ 今後もホームページの更新を適切に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染症防止対策の影響があったので通常時の体制に戻すとともに広げる工夫を行う。 ② より多くの参加者を募れるように期日等を工夫する。 ③ 今後もホームページの更新を適切に行う。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ① 安心で安全な教育環境を確立し、生徒一人ひとりが「気品と誇り」を持ち、のびのびと学習できる環境を整備し、より良い学校づくりを推進する。 ② 教員の働き方改革を推進するための意識改革を図り、ワークライフバランスを推進する。 ③ 職員全体で事故防止に取り組む。 ④ 学校図書館が学校生活の様々な場面で活用されるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員・生徒・保護者等が一体となってより良い教育環境づくりを行う。 ② 継続して新型コロナウイルス感染症予防対策を行う。 ③ 業務内容を精選し、1日単位で10日以上の子休が取得できるよう、業務改善を行う。 ④ 勤務管理をはじめ入学者選抜、成績処理、調査書発行等における事故を未然に防止する。 ⑤ 生徒一人一人の課題を引き出し、興味・関心に寄り添う図書館をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員・生徒・保護者等が協力して校内環境を整備し、改善に努める。 ② マスク着用、アルコール消毒、短時間の接触、換気を徹底する。 ③ 業務を精選し、グループ再編を行った結果についての検証を行い、組織的な業務改善を実施する。 ④ 1日単位での年休取得を意識し、全職員が10日以上の子休取得ができたか。 ⑤ 定期的な不祥事防止会議を実施し、啓発資料等を効果的に活用しながら職員の当事者意識を高める。 ⑥ 本校生徒のニーズに合った図書館運営を行う。 ⑦ 図書館に関する情報を積極的に発信していく。 ⑧ 地域・外部との連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① PTAや学校保健委員会、厚生委員会と連携し、校内整備を進めることができたか。 ② 新型コロナウイルス感染症対策を実施し、クラスター発生を抑制できたか。 ③ 業務内容を精選できたか。 ④ 1日単位での年休取得を意識し、全職員が10日以上の子休取得ができたか。 ⑤ 定期的な不祥事防止会議及び不祥事防止研修会を年間通して実施することができたか。 ⑥ 図書館の利用率・利用頻度は上がったか。図書館が関わる授業利用が増えたか。 ⑦ 広報活動を、各種メディアを用いて継続的に行ったか。 ⑧ 地域・外部との連携を進めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① PTA活動の活性化に伴い、校内美化活動などが再開した。 ② マスクの着用や黙食の励行など、HRや昼食時の注意喚起放送等により、組織的に取り組んだ。 ③ グループ再編に伴い、業務内容について確認している。 ④ 年休取得やテレワークを推進した。新採用教員と短時間再任用教員を除く58名中、1日単位での年次有給休暇を10日以上取得した者は22名(38%)であったが、時間休を日単位に換算すると51名(88%)であった。 ⑤ 定期的な不祥事防止会議を実施した。現在、事故不祥事の報告はない。 ⑥ 利用率・利用頻度は上がっていないが、授業課題の情報をうかがい、対応することができた。 ⑦ HP、twitter等を用いた広報活動を行うことができた。 ⑧ 3年ぶりに以前の形式で中学校2校の職業体験を受け入れた。 ⑨ 地域のイベントに、図書委員会の作品を貸し出した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 今後も活性化に向けて、活動していく。 ② 陽性者に対し、校内における濃厚接触者の確認が多々あり、今後も引き続き注意喚起を促していく。 ③ 来年度に向けて、グループ数を含めて、業務内容を精選する。 ④ 長期休業中に年次有給休暇を取得しやすくなるような業務計画を立てる。 ⑤ 事故防止に向けて、今後も職員の意識を高めていく。 ⑥ 様々な層の利用者にアプローチできるよう、情報収集に努める。 ⑦ 引き続き、継続的な広報活動に努める。 ⑧ 地域連携が可能なイベントに協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染症防止対策を講じながらも様々な活動を実施できた。 ② 次年度に向け、グループ及び業務整理を行った。 ③ 職員の年次有給休暇を取得しやすくなる取組を継続してほしい。 ④ 定期的な研修会を継続して行ってほしい。 ⑤ 地域と連携して展示等を行っていること、中学生の職業体験など継続してほしい。 ⑥ 広報活動も今後、継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 今後、通常時の生活に戻ることが適切な感染症対策を講じ、教育活動を行うことが課題である。 ② より一層の業務の精選と連携強化が課題である。 ③ 年次有給休暇を取得しやすくなるような業務計画が課題である。 ④ 事故不祥事の事例はない。 ⑤ 事故不祥事の防止に努める研修等を積極的に行う。 ⑥ 今後も利用率を上げるとともに地域にも情報を発信し、開かれた図書館運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育活動全体を通しての危機管理意識を持ちながら、適切な指導を心掛ける。 ② 業務内容が複数のグループに及ぶ場合の連携を行い、円滑な実施に努める。 ③ 今後も継続的に年次有給休暇を取得できるように業務計画を検討する。 ④ 事故不祥事の防止に努める研修等を積極的に行う。 ⑤ 今後も利用率を上げるとともに地域にも情報を発信し、開かれた図書館運営を行う。